



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

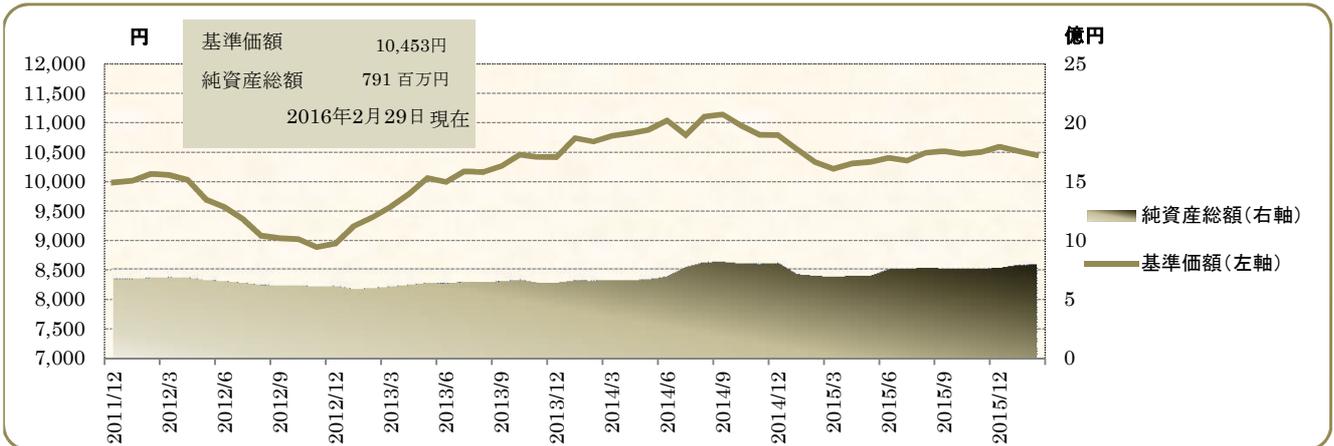
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年2月29日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

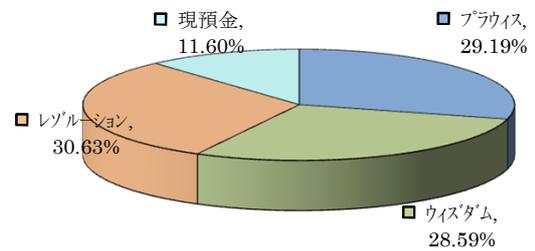
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%											-1.32%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2016年2月29日	
基準価額:	10,453円	対前月比 -71円
純資産総額:	791百万円	対前月比 +2.6百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.47%
基準価額騰落率	6ヶ月	-0.36%
設定来	ファンド	4.53%
基準価額騰落率	TOPIX	79.37%
	日経平均	90.76%

投資対象ファンドへの資産配分 (2016年2月29日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	-0.72%	-0.39%											-1.11%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%											-3.29%
レゾリューション	0.02%	1.80%											1.82%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

2月の株式相場は、日経平均で8.51%下落の16,026.76円、TOPIXで9.37%下落の1,297.85ptとなりました。ドイツ銀行に対する信用不安や原油価格の下落による投資家心理の悪化を背景に3か月連続の下落となりました。

上旬は、1日こそ前月末に発表された日銀によるマイナス金利政策を受け、欧米株高や円安を背景に上昇して始まったものの、その後は原油価格の下落やドイツ銀行への信用不安から大きく下落しました。9日には10年債利回りが初のマイナスとなるなど債券相場が急伸、金融株を中心に下落しました。

中旬はボラティリティの高い相場となりました。11日のイエレンFRB議長による議会証言が利上げペース鈍化を意識させたことから一時110円台を付けるほどドル安円高が進み、12日の日経平均は2014年10月以来となる15,000円割れとなりました。しかし12日引け後に信用不安の中心であったドイツ銀行が債権の買戻し計画を発表したことで信用不安が和らぎ、週明け15日には大幅反発し16,000円を回復しました。その後は一進一退の展開となりました。

下旬は、月末に控えるG20を前に様子見ムードが広がり方向感のない取引となりましたが、16,000円を保って取引を終えました。

需給面では、先月に引き続き海外投資家が売り越しとなる一方、個人投資家や信託銀行、投資信託、事業法人など国内投資家が買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、全セクターが下落しましたが、情報通信、医薬品、電気機器、電気・ガスが比較的下げが小さかった反面、鉱業、ガラス・土石製品、銀行業、証券・商品先物取引が大きく下落しました。ディフェンシブ業種が下げが小さかった一方、原油価格下落の影響を受ける業種や日銀のマイナス金利で悪影響を受けることが懸念される業種が大きく下落しました。

東証一部の売買代金は、下旬にかけては商いが低調だったものの、平均で2.8兆円と高水準となりました。

ファクター面では、先月に引き続きPERやPBRなどのバリュー関連の指標が続き大幅なマイナスとなり、低ベータ、低ボラティリティなどの低リスクファクターが好調でした。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

<ファンド運用状況>

2月の運用成績はJPYクラスで-0.39%となりました。2月前半はロングで保有していた金融株や輸出関連株の下落幅が相対的に高かったことから運用成績は悪化しました。しかし、2月中旬以降はそれまで値持ちの良かった内需株が決算を受けて大幅に下落したことや、保有していたREITが堅調に推移したことでパフォーマンスは改善しました。

セクター別の損益では、食品、不動産業、機械セクターでプラスとなり、小売り、化学、陸運、銀行セクターでマイナスとなりました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

3月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。企業業績の不透明感から引き続き上値は限定的と思われませんが、米国経済に対する過度な悲観が後退したことや、期末に向けて公的年金の買いも期待されることから大幅に下落するリスクも低いと考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

<ファンド運用状況>

2月の運用成績はJPY-Fクラスで-2.84%でした。先月に続き海外投資家が日本株から資金を引き上げる動きが見られ、物色動向も割安株がアンダーパフォーム、割高株がアウトパフォームしたことで大幅なマイナスの収益となりました。セクターでは家庭用品、銀行、通信、不動産を除く全てのセクターでマイナスとなりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで中村超硬（6166）、関電工（1942）、ショートポジションで横浜銀行（8332）、カルソニックカンセイ（7248）がプラス収益に寄与しました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

今月の株式市場は上昇を予想します。米国景気に対する過度な悲観論が後退したことや、原油価格が底打ちしたことで市場は落ち着きを取り戻すと考えます。また、中国全国人民代表大会議、ECB理事会、日銀政策決定会合での政策動向を睨みながらの相場展開を予想します。年初からの大幅な下落局面で大きく売り込まれた割安株の価格訂正に注目していきたいと考えます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

<ファンド運用状況>

小型株は、月央にかけて一気に調整した後、月末に掛けて戻り基調となり、月を通してみるとやや優位で終わりました。スタイル的には、月初にバリューが急落し、さらにローリスクが優位になりました。また、グロースも劣位となり、かろうじて利益モメンタムが効いた状況にあります。

全体として、為替感応度の低い銘柄がロングとなっていますが、一方でグロースの劣位も続いており、小型株らしい内需銘柄も足を引っ張りました。

相変わらず銘柄集中が続いていますが、内需小型株全体が堅調な状況にはありません。

プラス寄与は、個別業績が好調な割安株と、バリュエーションが高いながらも定性評価できるバイオ株となりました。バイオ株全体が沈んでいるため、一部高評価を与えられる銘柄のみのロング片持ちとしましたが、銘柄選択が有効となりました。

マイナス寄与は、振興銘柄の内需系と一部テクノロジー系のロングが、バリュエーション低下により足を引っ張りました。結果として、基本的にグロース、バリューともに厳しい状況にありましたが、プラスのパフォーマンス確保が図れました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

気敏感が売られる中で、定性評価によるハイバリュエーション銘柄の値持ちは良く、業績に明確な陰りがない限り、相変わらずショートが難しい状況にあります。

一方で、ある程度株価調整も進んでいることから、やや時価総額の大きな業績確度の高い銘柄ではリバウンド狙いのロングを、内需系で値持っていた普通の（個人投資家の少ない）銘柄ではショートを考えます。

個別性のあるスモールキャップのロング部分で、引き続きパフォーマンスの確保を狙いますが、新しい魅力的なサブカテゴリーが見いだしていく状況であり、ポジションの大幅なキャラクター変更は予定しません。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**